

【実態の把握、状況評価】

- ① 地下の埋設物、土壌や土質などの現状（地下空間の活用の現状、最新の知見など）
- ② 安全に活動するための情報収集・整理（被害の拡大防止、二次災害防止、環境の改善方法など）

【救助活動、関係機関連携】

- ① 効率的かつ効果的な救助手法
（ロープレスキュー技術、民間企業の保有技術・資機材、先進的技術・資機材の活用など）
- ② 地下構造物等の知見を有する関係機関との連携
- ③ 進行拡大する事案に対応するための連携体制